

第100回日本消化器内視鏡学会総会（JDDW2020）学会レポート

はじめに

第100回日本消化器内視鏡学会総会が、河合隆会長（東京医科大学 消化器内視鏡学分野）のもと、2020年11月5日から8日神戸コンベンションセンターにて、第28回日本消化器関連学会週間（Japan Digestive Disease Week: JDDW 2020）の一貫として開催されました。COVID-19感染予防の観点からハイブリッド形式での開催となりましたが、会場参加1779人、web参加19174人と合計では20,000人を上回る御参加を頂き、盛会のうちに終了致しました。御参加の先生方に御礼を申し上げるとともに、学会の様子をご報告申し上げます。



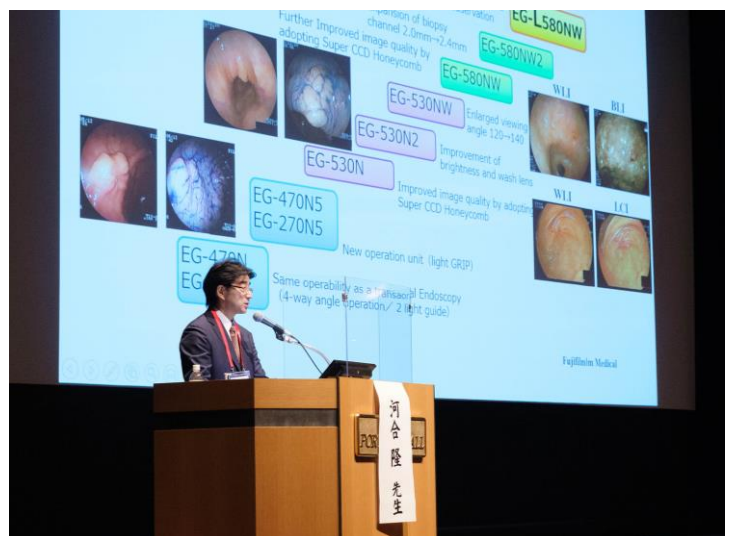
左：開会式で流れた河合先生のスライド

下：JDDW2020 5 学会会長と下瀬川理事長との記念撮影



会長講演

田尻久雄先生（東京慈恵会医大・先進内視鏡治療研究講座）のご司会で、河合隆会長より、「経鼻内視鏡のイノベーションとセレンディピティ」について講演頂きました。経鼻内視鏡の歴史、胃がん内視鏡検診における位置付け、2020年に登場し圧倒的な解像度の向上により micro surface pattern の観察可能となった第3世代経鼻スコープの実際、さらには食道蠕動運動機能検査の開発など機能評価への有用性、心肺機能へ及ぼす影響の少なさ、嘔吐反射を抑制できるため、検査頻回施行が可能なことから、アスピリンによる消化管障害発生予防への貢献など、これまで河合先生が関わられてきた研究についてお話頂きました。



左上：ご司会の田尻先生と河合会長との記念撮影

右上：河合会長による会長講演の様子

特別講演

特別講演1：河合隆会長の司会で、林由起子先生（東京医大・学長）より「多様性が社会を強くする」についてご講演を頂きました。世界の医療界、特に医療従

事環境から見た日本の医療現場の課題点、COVID-19 感染症の世界的流行による社会の仕組みと価値観の変貌、快適な生活を営むために「誰かがやってくれていた仕事」が「みんなでやる仕事」にシフトする家族のあり方、これらをダイバーシティの視点を踏まえ、様々な立場の人がそれぞれの課題を前に、どのように考え、行動していくのかを考えていくことの重要性についてご講演されました。ライフイベントを抱えた女性医師の働きやすい職場環境整備が急務であることを実感し、各国の女性首相から感じられる、女性の危機管理能力、意見の集約などバランス感覚の素晴らしさを学び、視野が広がったご講演でした。



左：林先生による特別講演のご様子

左：東京医大歴代学長と林先生のスライド



特別講演 2：五十嵐良典先生（東邦大医療センター大森病院・消化器内科）のご司会で、久村春芳様（日産財団・理事長、日産自動車（株）・元フェロー）より「電動化と智能化が拓くインテリジェントモビリティの時代」についてご

講演を頂きました。自動車が電動化・自動化など“新しい機能”を得ることで、その複雑化した自動車の“開発システム”について大きな変革が起こっていること。複雑化した車両の開発のために、開発システム上流において最適化を行う必要があり、従来の物理的性能シミュレーションの開発・活用に加え、Big Data を用いたデータサイエンスを活用することの大切さなど、我々も医療機器開発並びに技術開発において参考にすべきプロセスを教えてくださいました。



左:Webでご講演頂いた久村様と司会の五十嵐先生

招待講演

招待講演 1：藤田力也先生（昭和

大・名誉教授）のご司会で、Nib Soehendra 先生（University of Hamburg）より「My life in therapeutic endoscopy」に関してご講演いただきました。

招待講演 2：井上晴洋理事長（昭和大江東豊洲病院・消化器センター）のご司会で、元 ASGE president の Robert Hawes 先生（Advent Health Medical Group and University of Central Florida College of Medicine）より「The future of pancreatobiliary endoscopy - Where are we going ?」についてお話いただきました。

招待講演 3：伊藤透先生（金沢医大・消化器内視鏡学）のご司会で WE0 president の Fabian Emura 先生（Division of Gastroenterology, Universidad de La

Sabana) より「Complete photodocumentation of the upper GI tract: Would it be possible in clinical practice?」をテーマとしてご講演頂きました。世界的にご高名な先生方よりたくさんの刺激と将来への希望を頂きました。

統合プログラム

統合プログラム6（シンポジウム）として「胃・食道接合部領域の諸問題」が企画されました。瀬戸泰之先生（東京大大学院・消化管外科学）と後藤田卓志先生（日本大・消化器肝臓内科）のご司会で、菅野健太郎先生（自治医大・名誉教授）に基調講演をご担当頂きました。胃・食道接合部領域はその領域の定義より始まり、疾患の診断方法や発症原因など議論すべき諸問題が多く、8演題が採択されました。内視鏡で観察される柵状血管の診断的意義、逆流性食道炎と接合部領域疾患との関連性、胆汁逆流とバレット食道との関連、唾液中分泌能との関連、接合部癌の病理組織学的検討や発症のリスク因子の検討が報告されました。また、本セッションでは、接合部癌の年次推移を検討した庄司絢香先生（大阪国際がんセンター・消化管内科）が若手奨励賞を受賞されました。

消化器内視鏡学会特別企画

消化器内視鏡学会特別企画（ワークショップ）として「内視鏡AIの臨床的意義と開発の課題」が企画されました。司会を久津見弘先生（滋賀医大附属病院・臨床研究開発センター）と矢野友規先生（国立がん研究センター東病院・消化管内視鏡科）にご担当頂き、指定演者として田中聖人先生（京都第二赤十字病院・

消化器内科)、森悠一先生 (Institute of Health and Society, Faculty of Medicine, University of Oslo)、桐山瑤子先生 (株式会社 MICIN)、穴原玲子先生 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA))、米山朋那様 (厚生労働省医政局 経済課 医療機器政策室)にご講演頂き、臨床現場での内視鏡 AI の現状と、AI 開発を推進するために開発者や規制当局が直面している課題やその解決策についてのディスカッションの後、緒方晴彦先生 (慶應義塾大・内視鏡センター) に特別発言として総括を頂戴しました。

International Session

IS-S9 として「アジアにおける上部・下部消化器診療の最前線 (Cutting edge of upper and lower GI endoscopy in Asia)」が、山本博徳先生 (自治医大・消化器内科) と藤城光弘先生 (名古屋大大学院・消化器内科学) のご司会のもと行われました。基調講演を佐野寧先生 (佐野病院・消化器センター) にお話し頂いた後、

指定演者の Shiao-Hooi Ho 先生 (University of Malaya Medical center)、Yutaka Tomizawa 先生 (Division of Gastroenterology, University of Washington)、Ming-Chih Hou 先生 (Department of Medicine, Taipei Veterans general Hospital)、秋山純一先生 (国立国際医療研究センター病院・消化器内科)、Philip Wai Yan CHIU 先生 (Department of Surgery and Endoscopy Center, Prince of Wales Hospital, The Chinese University of Hong Kong)、Hiroyuki Aihara 先生 (Division of Gastroenterology, Hepatology and Endoscopy,

Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School)、Lawrence Khok-Yu Ho (National University of Singapore) 先生にご講演頂きました。最後に北野正剛先生 (大分大・大学長) に特別発言を頂戴致しました。

IS-S10 として「胆膵領域における診断・治療の進歩 (Improving diagnostic and therapeutic pancreaticobiliary endoscopy)」が糸井隆夫先生 (東京医大・消化器内科) と瀧沼朗生先生 (手稲溪仁会病院・消化器病センター) のご司会のもとで行われました。指定演者として、Makoto Nishimura 先生 (Memorial Sloan Kettering Cancer Center)、Amit P Maydeo 先生 (Baldota Institute of Digestive Sciences, Global hospital)、Rungsun Rerknimitr (Chulalongkorn University)、Jong Ho Moon 先生 (Division of Gastroenterology, SoonChunHyang University School of Medicine)、岩下拓司先生 (岐阜大・消化器内科)、Anthony YB Teoh 先生 (The Chinese University of Hong Kong)、岩崎栄典先生 (慶應義塾大・消化器内科)、桑原崇通先生 (愛知県がんセンター・消化器内科) にご講演頂き、最後に特別発言として藤田直孝先生 (みやぎ健診プラザ所長) に総括を頂戴致しました。

Strategic International Session

ST-PD1 として「日米における内視鏡医療の相違—日本の消化器内視鏡学会に期待すること— (Bridging Japan and the US in the gastrointestinal endoscopy—The expectations for JGES—)」が、田尻久雄先生 (東京慈恵会医大・先進内視鏡治療研究講座) と河合隆先生 (東京医大・消化器内視鏡学) のご司会のもと、

勝呂麻弥先生（東京医大・消化器内科）がコメンテーターを担当し行われました。米国にて現在活躍されている内視鏡医である、西村誠先生（Memorial Sloan Kettering Cancer Center）、相原弘之先生（Division of Gastroenterology, Hepatology and Endoscopy, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School）、冨澤裕先生（Division of Gastroenterology, University of Washington）がまず指定演者としてご講演され、ディスカッションにもご参加頂き、我々にも分かり易い英語で米国の内視鏡事情をご紹介頂きました。その後 Robert Hawes 先生（Advent Health Medical Group and University of Central Florida College of Medicine）と、Fabian Emura 先生（Division of Gastroenterology, Universidad de La Sabana）より基調講演をビデオレクチャーとしてご発表頂きました。その後、中井陽介先生（東京大附属病院・光学医療診療部）より、臨床での米国留学体験を元に日本と米国の実臨床の違いから課題点をご講演頂き、メディアという多角的な視野から、日本の医療に期待するものを小嶋修一様（TBS テレビ報道局）からご講演頂きました。さらに総括として井上晴洋理事長（昭和大江東豊洲病院・消化器センター）より特別発言を頂戴致しました。



左：ご司会の田尻先生・河合先生とコメンテーターの勝呂先生

右：セッション中の会場の様子



シンポジウム

S1 は JGES Core Session として「炎症性疾患における最先端の内視鏡診療-IBD 関連腫瘍の診断と治療」をテーマとして行われました。内藤裕先生（京都府立医大・消化器内科）と松本主之先生（岩手医大・消化器内科消化管分野）にご司会頂き、基調講演を久松理一先生（杏林大・消化器内科）に、特別発言を緒方晴彦先生（慶應義塾大・内視鏡センター）にご担当頂きました。10 演題が採択され、潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍（UCAN）の NBI 内視鏡や色素内視鏡の有用性、JNET 分類の有用性、拡大内視鏡の pit 分類の有用性、超拡大内視鏡の有用性、内視鏡治療や外科治療後のコホート研究などが報告され、活発なディスカッションが行われました。なお、名古屋大大学院・消化器内科学の喜田 裕一先生が「潰瘍性大腸炎における潰瘍性大腸炎関連腫瘍と一般大腸腫瘍の鑑別」という研究テーマで若手奨励賞を受賞しています。

パネルディスカッション

PD8 は加藤元嗣先生（国立函館病院・病院長）と間部克裕先生（淳風会健康管理セ

ンター)のご司会のもと、「死亡数減少を目指した胃がん内視鏡検診のエビデンス(経鼻内視鏡も含めて)」のテーマで行われ、基調講演を青木利佳先生(徳島県総合健診センター)に、特別発言を飯石浩康先生(市立伊丹病院・病院長)と高橋信一先生(佼成病院・消化器内科)にご担当頂きました。6演題が採択され、福島市、仙台市、静岡市、岐阜県などの地方都市における胃がん内視鏡健診の現状と制度管理を含めた内視鏡健診の問題点が報告されました。また、昨今胃癌診断に有用性が証明されている画像強調内視鏡を使用した内視鏡健診や鎮静剤を使用した内視鏡健診の現状も報告されました。

PD14はJGES Core Sessionとして「炎症性疾患における最先端の内視鏡診療-急性胆嚢炎に対する内視鏡の役割」のテーマで、五十嵐良典先生(東邦大医療センター大森病院・消化器内科)と植木敏晴先生(福岡大筑紫病院・消化器内科)にご司会頂きました。基調講演として伊佐山浩通先生(順天堂大大学院・消化器内科学)に前回のCore Sessionを振り返って頂き、指定演者として中井陽介先生(東京大附属病院・光学医療診療部)に、経皮(PTGBA/D)、経乳頭(ERCPでのETGBD)、EUSによるドレナージの比較をご講演頂き、本邦ではPTGBDが多く行われている現状と、EUS-GBDは手技・臨床的成功率は高いものの偶発症が多く専用デバイスなど課題があることをお話し頂きました。6演題の発表後外科の観点から遠藤格先生(横浜市立大大学院・消化器・腫瘍外科学)に内科の観点から乾和郎先生(山下病院・消化器内科)に特別発言を頂戴致しました。

ワークショップ

W1 は齋藤豊先生(国立がん研究センター中央病院・内視鏡科)と岡志郎先生(広島大・消化器・代謝内科)がご司会のもと、「大腸鋸歯状腫瘍の内視鏡診断と治療の現状」のテーマで行われました。基調講演を菅井有先生(岩手医大・病理診断学)にご担当頂き、14 演題が発表されました。菅井先生からは鋸歯状病変の分子・遺伝子異常を病理学的に評価することの重要性をご講演頂き、Sessile serrated adenoma 診断や鑑別における JNET 分類の有用性、その注意点、SSL における大腸癌や dysplasia 合併における色素・拡大内視鏡診断の有用性、AI 診断の有用性、Cold snare polypectomy の検討結果、病理学上の遺伝子変異、発癌メカニズムに関してご講演いただきました。がん研有明病院・消化器内科の畑森 裕之先生が「Traditional Serrated adenoma における 2 種類の遺伝子変異と病理組織形態に基づいた 4 つの亜分類の関連性について」の演題で若手奨励賞を受賞致しました。

W3 は井上晴洋先生(昭和大江東豊洲病院・消化器センター)と布袋屋修先生(虎の門病院・消化器内科)のご司会のもと、「食道良性疾患に対する内視鏡診断・治療の最前線」をテーマとして行われました。基調講演を小池智幸先生(東北大・消化器病態学)と塩飽洋生先生(福岡大・消化器外科)に、特別発言を岩切勝彦先生(日本医大・消化器内科学)にご担当頂きました。7 演題が採択され、膠原病の食道病変、自己免疫性水疱症などの内視鏡診断について、食道アカラシアに対する POEM の治療成績や術後疼痛の問題点、食道憩室に対する新規低侵襲内視鏡治療の成績などが報告されました。

W4 は炭山和毅先生(東京慈恵会医大・内視鏡医学)と土屋貴愛先生(東京医大・

消化器内科)の司会で「U45 Endolympic 2020 Kobe (動画で見せる達人の技:内視鏡治療関連)」と題して13名の若手内視鏡医により世界最高レベルの内視鏡技術をビデオで披露して頂きました。審査員に岡志郎先生(広島大・消化器代謝内科)、浦岡俊夫先生(群馬大・消化器肝臓内科)、小野裕之先生(静岡がんセンター・内視鏡科)、布袋屋修先生(虎の門病院・消化器内科)、河上洋先生(宮崎大・消化器内科)、竹中完先生(近畿大・消化器内科)を迎え採点をして頂いた結果、新型胆道鏡を用いてWON内に迷入した断裂したガイドワイヤーや金属スtentの回収を行った東京医大の小嶋啓之先生が金メダルを受賞しました。銀メダルにEndoscopic Ligation with O-ring Closure(E-LOC)を発表された香川大の西山典子先生が、銅メダルに乳頭部近傍の表在型非乳頭部上皮性腫瘍に対するESDのコツを発表された京都府立医大の土肥統先生が輝きました。さらに若手奨励賞として、嶋田賢次郎先生(広島市立安佐市民病院・内視鏡内科)が選ばれております。最後に河合隆会長より特別発言と表彰があり、大いに盛り上がったセッションとなりました。



上：ご司会の炭山先生と土屋先生



右：金メダル受賞の小嶋先生と河合先生

W6 は安田一朗先生（富山大・3内科）と良沢昭銘先生（埼玉医大国際医療センター・消化器内科）のご司会により「Interventional EUS の現状と将来展望」が行われました。EUS-FNA 検体を用いた遺伝子プロファイリング、膵癌疼痛に対する EUS 下腹腔神経叢融解術と薬物療法単独の RCT、術後膵液漏に対する EUS-TD、最新の EUS-BD の工夫、胆摘前の EUS-GBD 評価など 15 演題が発表されました。最後に特別発言として安田健治朗先生（京都第二赤十字病院・消化器内科）から総括を頂きました。

W7 は矢作直久先生（慶應義塾大・腫瘍センター）と石原立先生（大阪国際がんセンター・消化管内科）のご司会により、「上部消化管ガイドラインを検証する」が企画され、特別発言を藤本一眞先生（国際医療福祉大）にご講演頂きました。POEM ガイドライン、食道癌に対する ESD/EMR ガイドライン、胃癌に対する ESD/EMR ガ

イドライン、非静脈瘤性状上部消化管出血における内視鏡ガイドラインにおける有用性や問題点が議論されました。また、同セッションでは伊藤信仁先生(名古屋大大学院・消化器内科学)が非静脈瘤性状上部消化管出血に対して治療介入の可否を決定するためのスコアリングに関して発表し、若手奨励賞を受賞致しました。

W8 は田中信治先生(広島大大学院・内視鏡医学)と斎藤彰一先生(がん研有明病院・消化器内科)がご司会を担当され、「下部消化管ガイドラインを検証する(対象:小腸内視鏡診療ガイドライン, 大腸ESD/EMRガイドライン)」が行われました。樋口和秀先生(大阪医大・2内科)から特別発言を頂きました。14 演題の発表と、自治医大の山本博徳先生から「小腸内視鏡診療ガイドライン」作成委員長の立場から、新知見の追加点、今後必要な補足事項に関してわかりやすく解説頂きました。また、広島大の田中信治先生からは「大腸ESD/EMRガイドライン」のKey pointを概説頂き、多岐にわたるテーマで活発なディスカッションが行われました。なお、国立がん研究センター中央病院・消化管内視鏡科の奥田奈央子先生が「大腸pT1b癌における異時性転移再発のリスク因子解析」で若手奨励賞を受賞しました。

W11 は貝瀬満先生(日本医大・消化器肝臓内科)と岡田裕之先生(岡山大大学院・消化器肝臓内科学)のご司会のもと、「胃癌のスペクトラムー未感染胃癌と自己免疫性胃炎合併胃癌の最前線ー」が企画されました。基調講演を藤崎順子先生(がん研有明病院・内視鏡診療部)に、特別発言を北川雄光先生(慶應義塾大・外科)にご講演頂きました。胃底腺型胃癌の内視鏡的、病理組織学的な検討、胃底

腺ポリープの癌化、H pylori 未感染胃癌、自己免疫性胃炎合併胃癌の検討など
12 演題が報告されました。また、並河健先生(がん研有明病院・上部消化管内科)
が未分化型胃癌の発生に関連する遺伝子変異に関する検討で若手奨励賞を受賞
されました。

W16 は JGES Core Session として「炎症性疾患における最先端の内視鏡診療-
H. pylori 関連胃炎(胃炎の京都分類改訂を踏まえて)」が企画され、ご司会を塩
谷昭子先生(川崎医大・消化管内科)と永原章仁先生(順天堂大・消化器内科)
が担当されました。基調講演として鎌田智有先生(川崎医大総合医療センター・
健康管理学)より胃炎の京都分類の～これまでとこれから～をご発表され、永原
先生より前回の Core Session の振り返りをして頂きました。11 演題の発表では
鳥肌胃炎における組織学的世代間比較、小児領域における胃炎の京都分類の有
用性、京都分類を用いた H. pylori 感染と胃癌リスクあるいは除菌後胃癌のリス
ク評価、画像強調処理を用いた京都分類の診断有用性、A 型胃炎や好酸球性胃炎
の評価などが報告されました。最後に特別発言として飯石浩康先生(市立伊丹病
院・病院長)より総括を頂戴しました。

W22 は、「大腸内視鏡スクリーニング挿入法から病変の拾い上げまで」と題し
て、松田尚久先生(国立がん研究センター中央病院・検診センター)と浦岡俊夫先
生(群馬大・消化器・肝臓内科)のご司会、基調講演を藤井隆弘先生(藤井隆広ク
リニック)にご担当頂きました。藤井先生からは、IIc 病変発見の重要性と今後
新規画像強調や人工知能による診断率向上への期待を講演頂きました。前処置
法の工夫、経験数による挿入時間の違い、大腸挿入時における上部内視鏡と CT

の適応、PCF-PQ260L 使用による苦痛軽減、Endowing の有用性、NBI 観察における見逃し防止策、LCI 使用の検出率向上、挿入時間短縮の工夫、大腸癌術後スクリーニングの注意点など 11 演題が発表されました。なお、新東京病院・消化器内科の村上大輔先生が「Post-colonoscopy colorectal cancer の検討」で若手奨励賞を受賞されました。

デジタルポスターセッション

COVID-19 感染拡大予防の観点から、誌上発表となりました。

JDDW2019 Award 受賞（内視鏡学会）

会長賞

今回の会長賞は、査読委員の評点の最も高かった「AI 診断システムによる多発ヨード不染診断の有用性」を報告された、池之山洋平先生（がん研有明病院・消化器内科）が受賞され、河合会長より賞金が授与されました。

また、優れた発表に対して、ポスター優秀演題賞 22 題、若手奨励賞 41 題、海外の先生のご発表に Travel Award 6 題が授与されました。



左：表彰式の様子 池之山先生と河合会長

おわりに

記念大会である第 100 回日本消化器内視鏡学会総会は、コロナ禍において、ハイブリッドという新たな形式での開催となりました。プログラム委員、評議員、査読委員、司会、演者の先生方、ご参加いただきました先生方、JDDW 運営事務局、ご協賛頂きました企業の皆様方のご支援とご協力を賜り、盛会裡に終了することができました。心より御礼申し上げます。また、準備や当日の運営にご尽力頂きました準備委員長の土屋先生をはじめ消化器内科の先生方、医局員の先生方、同門の先生方にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

以上を持ちまして第 100 回日本消化器内視鏡学会総会レポートとさせていただきます。

文責：岩田英里